

特集

〈事例〉

除草作業等に4種65台を導入 事業終了後も継続使用を検討

公益社団法人
武蔵村山市シルバー人材センター

(東京都)

武蔵村山市SCでは「シルバー会員就業支援事業」を利用し、草刈りや剪定作業における会員の身体的負担を軽減させるアシストスーツや、熱中症対策に役立つ冷却機器を導入。使用した会員の評価はおおむね良く、使用の継続を希望する声が多い。そのため、センターでは事業終了後も引き続き就業支援機器を使っていきたいとして、具体的な運用の仕方について検討を進めている。

除草や剪定での利用を想定し 4種類の就業支援機器を導入

武蔵村山市SCでは、除草や剪定の仕事を多く受注しており、学校や公園、道路脇、公共施設、集合住宅などの作業を手掛けている。その中で課題になっているのが、作業に当たる会員の身体的負担だ。各センターでは会員の高齢化が進んでおり、令和6年度における会員の全国平均年齢は75・1歳と70代中盤を迎えている。武蔵村山市SCでも会員の平均年齢が年々上昇する中、70代〜80代前半の会員が除草作業等を担っている。いかにして作業に当たる会員の身体的負担を軽減するか。それが

除草作業等の受注を継続するための鍵となっていた。

そんな折、センターでは令和7年度「シルバー会員就業支援事業」

(以下、支援事業)の受託者募集を知り、応募することを決めたと。支援事業への応募に向け、センターは採択を受けるための就業支援機器の選定に取りかかった。斎藤淳事務局長代理は「除草や剪定作業での利用を想定して、就業支援機器を選びました。まずは12種類ほど選定し、そこから4種類に絞り込みました」と話す。支援事業に採択されて実際に導入したのは、腰や腕にかかる負担を軽減するアシストスーツ3種28台、熱中症対策に向けた頸部冷却機器1

種37台である。

令和7年6月に試用を開始した就業支援機器の概要と数、選定理由は次の通りである。

〈アシストスーツ〉

● マッスルスーツ Soft-power EASY-LIFT
ゴムの力を利用して腰を引っ張って支えるアシストスーツ。22台をレンタルした。

軽作業をアシストするのに向いていると判断。利用頻度が高いと考え、次に挙げるサポートジャケットBb+Airより多めに導入した。

● サポートジャケットBb+Air
背中を支え、腰への負担を軽減する外骨格型アシストスーツ。3



アシストスーツのうちの一つ、「マッスルスーツ Soft-Power EASY-LIFT」。その効果を実感し、除草作業のたびに進んで利用する会員もいる

アシストスーツは、刈り取った草を運搬する際や、草刈り機を使用する際などにかか
る腰への負担を軽減するという



台をレンタルした。
マッスルスーツ Soft-Power EASY-LIFTより重い物を扱う作業に適していると判断し、採用した。

●DARWING Agreelude(ダーウィンアゲレルデ)
腕を上げた状態で行う作業をアシストする。剪定作業を行う会員

が3人いることから人数分をレンタルした。

〈頸部冷却機器〉
●Comodogear i3
(コモドギアアイスリー)
水冷式のネッククーラー。熱中症対策として選定した。除草作業や剪定作業など屋外作業に当たる会員が37人いたことから、人数分

アシストスーツの装着方法を会員同士で教え合うなど協力する姿が見られた



を用意した。

会員の声を 今後の検討に生かす

センターでは、導入した就業支援機器を実際の作業で有効に活用してもらうため、斎藤事務局長代理をはじめとするセンターの職員が会員の作業現場まで行って、機

センターの職員が作業現場にカタログを持参して機能や効果を説明するとともに、装着方法などを丁寧にレクチャーする。写真の機器は腕を上げて行う作業をサポートする「DARWINING Agerelude（ダーウィンアゲレルデ）」



器の装着方法や取り扱い方などの説明をした。アシストスーツは装着にこつが要するため会員同士で教え合うなどしており、作業に就業支援機器を積極的に取り入れていこうとする姿が見られた。

事務局には就業支援機器を使っていた会員からさまざまな声が届いている。

れた。

また、ダーウィンアゲレルデについては「剪定作業では腕や肩に大きな負担がかかりますが、この機器は腕が下がらないようにしっかりと支えてくれるので、作業が楽になりました」との感想が寄せられている。

斎藤事務局長代理は「今回の就業支援機器の導入は、会員におおむね好意的に受け入れられたと感じています。アシストスーツや冷却機器を引き続き使い続けたいと希望する声も多く寄せられました」と話す。

一方で、就業支援機器の使用に對して消極的な意見も見られた。

アシストスーツは、もともと体力のある会員には効果あまり感じられなかったといい、作業服によっては装着が難しかったり、空調服と組み合わせる装着できなかつたりすることも、使用に前向きになれない理由だという。

頸部冷却機器のコモドギアは、

ダーウィンアゲレルデは、長時間にわたって腕を上げたまま行う作業に効果的だという。センターでは剪定作業に活用している。



腰に装着するバッテリーが重いうに駆動時間も長くなく、2時間持たなかったこともあったそうだ。また、屋外作業に従事する会員の人数分のコモドギアを用意したが、機器の管理上、会員1人につき1台を専用で使ってもらうことが難しかった。この機種の特性上、肌に直接触れる部分があるため、他

人と共用することに抵抗を感じるという声も多かった。瀬谷崇事務局長は「会員が使ってみて不満に感じたという点も考慮して、今後の導入について検討していきたい」としている。

就業環境改善に向けて

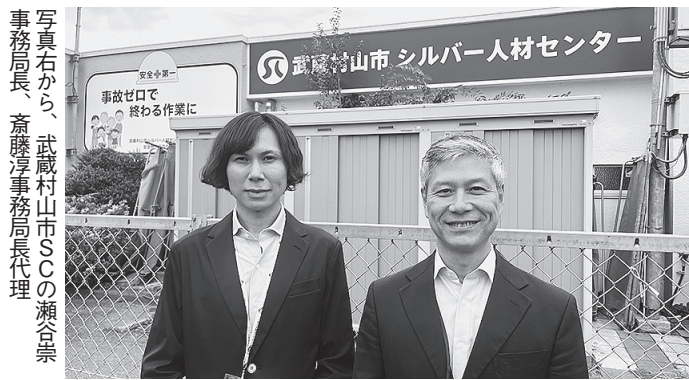
センターにおける支援事業の実施期間は令和8年3月までとなっている。センターでは、支援事業終了後も就業支援機器の使用を継続していく考えだが、課題があるという。瀬谷事務局長は「当センターの思いとしては、試用した就業支援機器をそのまま継続して使用していきたいのですが、予算などの問題から全ての会員に行き渡るほどの数を用意するのは困難です。そうした問題も含め、今後の対応について検討しています」と話す。

さらに瀬谷事務局長は、夏の猛暑対策や会員の身体的な負担軽減に向けた取り組みを模索する上で、

支援事業は非常に有意義だったとして、会員が少しでも長く元気に活躍できるように、これからもサポートしていきたいとしている。「会員の高齢化が進んでいるため、就業環境改善に向けた取り組みを一層強化していく必要があります。この支援事業を通して、就業支援機器の使用が会員の身体的

負担を軽減することが分かりました。こうした機会があれば今後も利用して、会員に健康で長く働いてもらえる方法を探っていければと考えています」と瀬谷事務局長は展望を語った。

(川上和義)



写真右から、武蔵村山市SCの瀬谷崇事務局長、斎藤淳事務局長代理

事業運営状況 (令和2年度～令和6年度)

年度	会員数			粗入会率 %	就業実人員 (延人員) 人 (人日)	就業率 %	受注件数 件	契約金額 千円	公民比 %
	男性	女性	全体						
令和2	662	421	1,083	4.8	825 (111,742)	76.2	2,460	436,924	62.6/37.4
3	667	412	1,079	4.7	781 (113,837)	72.4	2,640	447,167	62.2/37.8
4	633	392	1,025	4.5	805 (114,578)	78.5	2,730	448,475	60.4/39.6
5	612	375	987	4.3	818 (106,793)	82.9	2,203	443,008	60.3/39.7
6	588	382	970	4.2	799 (105,816)	82.4	1,841	450,794	63.2/36.8

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値
 ※就業実人員は請負・委任と労働者派遣事業が対象 ※就業実人員は労働者派遣事業の教育訓練受講を含む
 ※令和5年度以降は性別未回答の会員がいるため、会員数の男女計と全体は必ずしも一致しない